

第35回（2025年）

全国花のまちづくりコンクール

報告書



花のまちづくりコンクール推進協議会

第35回（2025年）全国花のまちづくりコンクール 受賞者一覧

応募者数 924件（市町村部門 6 団体部門 604 学校部門 201 個人部門 72 企業部門 41）

大賞（5件）

農林水産大臣賞

団体部門 浦戸諸島「海と花の物語」

個人部門 佐々木 裕哲

国土交通大臣賞

市町村部門 射水市

団体部門 名塩さくら台景観緑化クラブ

文部科学大臣賞

学校部門 伊奈町立小針北小学校

優秀賞（11件）

団体部門

花のまち 花くらぶ
まちづくり宮ノ下地区委員会
新川姫蛭と花を守る会
あさごなでしこの会
しょうばら花会議
特定非営利活動法人はかた夢松原の会

学校部門

恵庭市立恵み野中学校
群馬県立富岡実業高等学校 草花部

個人部門

奥川 きみ子
角所 誠司・いづみ

企業部門

武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園

奨励賞（6件）

団体部門

水戸イングリッシュガーデンクラブ
みつばちガーデンズ&静岡市役所園藝部
小川お花畑ぐるーぷ

学校部門

玉川村立須釜小学校
和歌山県立和歌山高等学校

企業部門

有限会社豆蔵

入選（57 件）

市町村部門

孺恋村

団体部門

しらかわバラの会
上堀駅を愛する会
市井自治会
東藤島おもてなし花壇
天浜線 人と時代をつなぐ 花のリレー・プロジェクト
関田西高砂会・関田東高砂会
堀切地区ボランティアの会
コットン平野
シーマークス・タテニワ倶楽部
伊丹市フラワーリーダー同好会 8 期生
鶉野中町花家族の会
横川第二公園園芸クラブ
北九州市立小嶺児童館
花畑 3 丁目 1 区町内会スマイルガーデン
プリンセスローズクラブ
高岡市立醍醐公民館 花と緑の推進部会
花と緑の銀行上市支店
美山を美しくする会
みくりや花と緑の会
特定非営利活動法人田原菜の花エコネットワーク
菰野町水土里の郷の会
さつき福祉会 さつき障害者作業所
ガーデンファイブ
サポーターズガーデン
花てまりの会
ふれあいガーデン「くすな」
金田第一町内会
黒肥地 10 区 みんなの花壇

学校部門

宮城県加美農業高等学校
五霞町立五霞中学校
長岡市立桂小学校
三島市立東小学校
菊川市立小笠北小学校
静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校
明石市立清水幼稚園
みなべ町立高城小学校
喜多方市立上三宮小学校
館林市立第九小学校
高岡市立成美小学校
富士市立富士南小学校
松崎町立松崎中学校
尼崎市立上坂部小学校
学校法人野間幼稚園
認定こども園 高見の森保育園

個人部門

清水 貴久子
滝澤 善隆・市子
房谷 弘之
寺尾 康男・桂子
刈尾 安正・希美子
松本 茂治
服部 啓子
尾花 幸雄
松浦 さつき・千春

企業部門

有限会社風のみどり塾
タニザワフーズ株式会社
株式会社金沢村田製作所

特別賞（9 件）… 当コンクールにおいて入賞回数が規定回数に達した継続的な活動を特別に称えます

プラチナ賞（入賞回数 15 回）

団体部門

鶉野中町花家族の会

ゴールド賞（入賞回数 10 回）

団体部門

名塩さくら台景観緑化クラブ

個人部門

奥川 きみ子

シルバー賞（入賞回数 5 回）

団体部門

さつき福祉会 さつき障害者作業所
新川姫堂と花を守る会
横川第二公園園芸クラブ

個人部門

松本 茂治
房谷 弘之
佐々木 裕哲

コンクール審査委員長 齋藤 京子



第35回全国花のまちづくりコンクールの総応募数は924件となり、昨年の605件より319件増加しました。自治体などからの協力も増え嬉しいです。コンクールを活動の記録や励みとするなど、気軽にご活用いただきたくお願いします。部門別には市町村6件、団体604件、学校201件、個人72件、企業41件でした。この度、栄えある各賞を受賞されました皆さまへ、心からお祝い申し上げます。そして、花のまちづくり活動に取り組むすべての皆さま及び日頃からこの活動を支えていただいている関係者・関係機関・団体などの方々に心より感謝申し上げます。

花と緑と皆の力で今後どうしていくのか ―プランを練って着実に楽しく活動する『花のまちづくり』が展開されていました

花と緑の効用を地域の環境づくりやコミュニティづくりに活かす取り組みは、一朝一夕にはできません。先を見据えたプランを作り、花と緑があふれる気持ちのよいところになりたいとの想い・モチベーション・仲間・資金があってこそ実現し、継続できます。長く活動をされている市町村・団体・学校・個人の皆さまの取り組みは、素晴らしいものがあり、継続を支えるノウハウがそれぞれあります。入賞回数に応じた継続的な活動を特別に称える「特別賞」の受賞者が増えているのは嬉しい限りです。一方、クラウドファンディングによる活動の再興や、地域外の有志による活発なネットワーキング、マンション居住者による共有スペースの壁面緑化装飾活動など、状況の変化や居住環境に応じた活動も展開され、大変興味深く思います。また、年々厳しくなる酷暑を乗り切るために、水やりや栽培管理方法の工夫、一年草中心ではなく宿根草、花木、灌木、樹木を積極的に取り入れている事例が見られます。今後このような取り組みは益々重要になります。

全国花のまちづくりコンクールは、1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念「自然と人間との共生」を継承しています。2027年に横浜で開催される国際園芸博覧会の理念にも共通する「花のまちづくり」活動を一層盛り上げていくために、多くの皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

大賞受賞者の注目すべき高く評価された取り組み

浦戸諸島「海と花の物語」は、2011年の東日本大震災後、全国から励ましの気持ちと共に花々の球根が届き、その花々で癒しと活力が育まれた体験のもとに結成された団体です。島民が減少した桂島を拠点に、島外のメンバーが島民と協力して花による景観づくりを進め、現在は約1,000㎡の敷地に約1万本の花々が美しいフオスポットと共に訪れる人を楽しませています。活動者はメンバーのほか、大学生や国内外の来訪者など年間約200名にも広がり、創造性豊かな楽しい活動が展開されています。会の運営も、予定表の配布、ブログでの活動報告、総会を開催し報告・計画・予算を審議するなど、民主的になされており、人口減少地域での地域振興モデルとして、大変高く評価されました。

佐々木 裕哲氏は、1999年に自邸でアジサイの植栽を始め、2003年からオープンガーデン「あじさいの“恵紫園”」を通年開園しています。各種媒体で、関西あじさい名所11選の一つとして紹介されるなど、同園は地域の観光資源として年々多くの人を訪れるようになり、2024年は4,000人以上の来訪者がありました。アジサイは、日本の在来種や園芸種など320種、1,200株を鉢や地植えで育てており、アジサイの盆栽仕立て、土壌の違いによる発色の様子など、技術を伝える交流も積極的にされています。佐々木氏との交流を通じて、地域では花壇づくりやオープンガーデンが広がるなど、その長年にわたる活動は花による地域の観光振興として、大変高く評価されました。

射水市は、富山県が花と緑の県づくりを進める推進母体として1973年に設立した「(公財) 花と緑の銀行」の15支店の一つです。2005年に5市町村が合併し、現在の「射水支店(イコール射水市)」となりました。旧市町村の枠を越えた一体感を醸成する手段の一つとして、花のまちづくりに取り組んでいます。緑の基本計画の策定、花壇コンクールや市民の集いの主催、「地方銀行(市内小学校旧校下単位)」への花苗配布、活動費補助など、各種の支援を行っ

ています。最大の特長は、長年にわたる「花と緑の銀行」のフレームを活かした、射水市の継続的で意欲的な物心両面の支援です。これらの支援が、各地域でポテンシャルの高い人材の育成と活動の継続に繋がっていることが、大変高く評価されました。

名塩さくら台景観緑化クラブは、居住する分譲住宅地の空き地や不法投棄が目立つ状況を憂いた住民有志が、2014年に「まちを美しく元気にしたい」との想いで立ち上げた団体です。遊歩道などを花木で美しい景観にするための計画は、綿密に練りあげられ、行政事業として採択実施されました。その後も栽培管理と景観向上に努め、新たな計画を着実に実現しています。現在、活動地は2,170㎡にわたり、周囲の自然林に馴染む木々や花木、宿根草等による植栽が、ローコスト・ローメンテナンスで美しく維持されています。景観に惹かれ居を構える方が増え、住民が朗らかに散策する姿も見られます。将来を見据えた計画を基に、理想像を着実に歩む同会の取り組みすべてが、大変高く評価されました。

伊奈町立小針北小学校は、バラのまちで知られる伊奈町にあり、児童が地域資源を活かして課題と解決策を考える学習活動として、2023年から6年生130名を中心に「バラ栽培プロジェクト」に取り組んでいます。自然循環を取り入れた土づくりをはじめ、各自が担当するバラを決め名前も付けて、慈しみながら120株以上を育てています。地域の方も訪れる同校のバラ祭りでは、活動紹介のほか、児童が制作したバラを用いたハーバリウムの販売なども行っています。収益は活動資金に充てられ、活動は6年生から5年生に引き継ぎ式を通じて引き継がれます。バラを核としたこの学習活動は、今までに例を見ない社会に開かれた画期的な活動として、大変高く評価されました。

以上、第35回を迎えた全国花のまちづくりコンクールの審査講評を終わります。

特別賞

プラチナ賞

鵜野中町花家族の会 団体部門 兵庫県加西市

鵜野中町花家族の会は、2005年に地域住民有志により活動を開始し、現在は70～90歳代の約35名が参加しています。「地域の花づくりを通して人の心に花を咲かせよう!」をテーマに、花を育てる活動のほか、親子芋掘り大会やオープンガーデンを開催し、子どもから高齢者まで世代を超えた地域のコミュニケーション向上に努めています。また、旧飛行場跡や地下防空壕などの戦争遺跡を整備・管理し、平和学習の場として活用するなど、地域の特性を活かした花のまちづくりにも取り組んでいます。花のまちづくりコンクール推進協議会は、同会の継続的な活動に敬意を表し、さらなる発展を期待しています。



団体部門 浦戸諸島「海と花の物語」 宮城県塩竈市



受賞者からの活動紹介

活動のきっかけ及び概要

私たちの活動は、2011年の東日本大震災を契機に桂島で始まりました。震災直後、全国からチューリップや水仙の球根が届けられ、被災地に咲いた花々が人々の心を癒し、前を向く力となったことが、活動の原点です。以来、月3回ほどのペースで活動が続けており、近年の参加者は延べ年間約200名にのびります。継続的な取り組みにより、約1,000㎡の敷地では四季折々、約1万本の花が咲き誇るようになりました。活動日には作業の前後に浦戸諸島の島歩きを取り入れ、島々の魅力の再発見や地元の方々とのふれあいも楽しんでいます。また、メンバー以外の団体や大学生にも参加いただき、新たな交流の輪も広がっています。



努力していること

活動場所が離島であるため、多くのメンバーは船での移動が必要です。船の運航は天候に左右され、予定変更を余儀なくされることも少なくありません。夏場の厳しい暑さや、店や病院のない環境下での作業には危険も伴うため、安全管理には特に気を配っています。それでも、参加者から「楽しかった」と声をかけてもらえることが、私たちにとって何よりの励みです。その一言が、活動が続けるエネルギーになっています。

活動の成果

花のある景観は人々に安らぎを与え、島の皆さんには地域への誇りが育まれていると感じています。活動を通じて地域内外の交流が生まれ、浦戸諸島の魅力を知ってもらう機会も増えました。環境省の「みちのく潮風トレイル」のコースにもなったことで、国内外からの来訪者も年々増加しています。

今後の展開

今後も、花による景観づくりを通して浦戸諸島の魅力を発信し、世代や地域を超えた交流を促進することで、島の活性化を目指していきます。全国から寄せられた花のご縁に感謝しながら、花に込められた想いをつないでまいります。



個人部門 佐々木 裕哲 和歌山県有田川町



受賞者からの活動紹介

活動のきっかけ及び概要

1999年、自宅裏の約100坪の庭にアジサイを植え、妻とともに趣味として楽しんでいました。旧吉備町(現・有田川町)では、コスモスによる花いっぱい運動が推進されており、アジサイで参加したことが活動の始まりです。株数も少なく、一日の見学者は20～30人ほどでしたが、メディアで紹介されたことをきっかけに見学者が徐々に増加しました。2003年からは、オープンガーデンとして一年中開放しています。

努力していること

日本古来の山アジサイや西洋アジサイなど、約320種・1,200株を鉢植えや地植えで育てており、多品種を自然な姿で咲かせることを心がけています。アジサイは土壌のpHによって花色が変化するため、肥料の施し方には特に注意を払っています。毎年多くのアジサイ愛好家が訪れる中、一人でも多くの方に感動と満足届けられるよう、花の配色にも細心の注意を重ねています。また、来園者には花づくりの魅力を伝え、「小さな場所でも一緒に楽しみませんか」と声をかけるよう努めています。



なく、アジサイ園に多くの方が訪れることで地域の活性化につながればとの思いで、アジサイを咲かせてきました。夫婦仲良く元気に過ごしているのも花のおかげです。2015年頃の来園者は、地元中心の約2,000人でしたが、2025年には17都道府県から664人が訪れ、総数は4,547人にのびりました。SNSでも評価が広まり、「関西あじさい名所11選」の一つとして紹介されるようになりました。

今後の展開

大賞受賞を機に、花づくりの楽しさがさらに広がり、「私もつくってみたい」「咲かせてみたい」と思う方が増えることを願っています。花は、ただ美しいだけでなく、人と人、人と社会をつなぐ力を持っています。その魅力を伝えながら、これからも地道な活動を続け、花づくりを通じた交流の輪を広げていきたいと考えています。



活動の成果

有田みかんの産地として知られる地域ですが、観光資源は少



受賞者からの活動紹介

活動のきっかけ及び概要

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、2025年に市制施行20周年を迎えました。合併前は、5つの旧市町村それぞれが独自に緑化推進活動を行っていましたが、合併を機に、ひとつの「射水市」として新たな活動をスタートしました。旧市町村の活動の特色を大切に受け継ぎながら、新たな風を取り入れ、花と緑があふれる、より良い射水市の実現を目指して、地域一体となって取り組みを続けています。



こうした活動は当初一部地域で始まりましたが、現在では市内全域に広がり、花づくりを通じた世代間交流の場としても定着しています。花壇づくりの長年の積み重ねにより、花を育む文化が根付き、県内でもトップレベルの花壇が複数存在するなど、地域全体で主体的に取り組む風土が育まれています。

今後の展開

市制施行20年を迎え、射水市の花づくり活動は成長期から成熟期へと移行しています。一方で、担い手の高齢化や人手不足により、花壇管理の負担が増しているのが現状です。

今後は、花に触れ合う教室や花壇コンクールを通じて、若年層が花に親しむ機会をさらに創出し、市民はもちろん、射水市を訪れるすべての人が花とふれあい、幸せを感じられるまちづくりを進めてまいります。

努力していること

市内各地に点在する花壇の魅力を再発見し、互いに切磋琢磨する場として、毎年7月に射水市主催の「花壇コンクール」を開催しています。地域の緑化担当者が中心となり、花苗・苗木・球根の配布や花壇の造成・管理を行い、射水市がその活動を助成し、地域と行政が連携しながら、花壇づくりに取り組んでいます。観光で訪れる方をはじめ、通勤・通学の途中に通る方々にも癒しを届けられるよう、各地域が心を込めて花壇整備に取り組んでいます。

活動の成果

射水市では、保育園や介護施設で花に触れ合う教室を開催し、福祉活動とともに新たな担い手の育成にも取り組んでいます。



団体部門 名塩さくら台景観緑化クラブ 兵庫県西宮市



受賞者からの活動紹介

活動のきっかけ及び概要

2008年に市街地から離れた名塩さくら台に入居しました。外周の遊歩道は雑草が生い茂り、建築廃材や家電の不法投棄、不法駐車も常態化していました。環境を改善したいと市に花壇設置を申し入れたところ、個人では不可だが自治会なら許可されるとのことで、2014年に自治会として「名塩さくら台景観緑化クラブ」を立ち上げ、兵庫県の「県民まちなみ緑化事業」の助成も申請し、活動を開始しました。



くのが怖かった場所が明るくなりました。400m以上続くボーダー花壇には散歩する人が増え、地域の健康増進や防犯にも役立っています。現在の名塩さくら台は、空き家がほとんどなく、若い世帯や子どもも増え、活気ある町になっています。

今後の展開

大賞をいただいたことで、活動の機運が高まることを期待しています。これまでメンバーだけで行っていた作業を、自治会全体で取り組めるようになれば、整えた花壇が荒れることなく持続できると思います。そして、近隣住宅地のモデルとなれるよう、行政への働きかけをはじめ、淡路景観園芸学校からの見学受け入れも今後も継続していきたいです。

努力していること

活動場所は2,170㎡と広く、メンバーは20名弱です。月2回の作業で維持するため、ローメンテナンスを心がけています。高木・中木を中心に植栽し、周囲に低花木や宿根草を配置しています。一年草は花期の長いものを少量にとどめ、近年の猛暑に対応するため乾燥に強い植物を選び、冬は球根類を活用します。花の数が少なくても、レイアウトを工夫し、さりげない美しさとお洒落さの演出を心がけています。

活動の成果

活動を始めて不法投棄がなくなり、花壇に隣接する空き区画はすぐに売れました。夜には玄関灯がとまり、昼間でも歩



学校部門 伊奈町立小針北小学校 埼玉県伊奈町



受賞者からの活動紹介

活動のきっかけ及び概要

本校では、2021年度より校内花壇の再整備を栽培飼育委員会が進めてきました。この活動を基盤に、2023年度から6年生を中心に「バラ栽培プロジェクト」として、地域の特色である「バラのまち伊奈」と結びつけた実践体験型のPBL※を展開しています。バラ栽培を通して「自然との共生」や「まちづくりへの参画」を学び、現在は120株以上のバラを育て、地域の花文化を子どもたち自身が担う取り組みとなっています。



※PBL:Project-Based Learning/課題解決型学習

努力していること

日々の水やりや観察、剪定を通じて、子どもたちはバラの生育の変化に気付き、学びを深めています。農業に頼らず育てるため、納豆菌・乳酸菌・酵母菌を培養し、葉面散布で黒星病やうどん粉病などの病気予防に取り組んでいます。また、校内や里山公園で集めた雑草や落ち葉、JAから米ぬかを、地域の乗馬クラブから馬糞をご提供いただき、堆肥づくりにも挑戦し、資源循環を取り入れた「持続可能なバラ栽培」を実践しています。

活動の成果

毎年秋には「小針北小バラまつり」を開催し、ポプリやハーバリウム、CADソフトで制作した3Dプリンター植木鉢など、多様な

商品を企画・販売しました。収益は翌年度の肥料や資材購入に充て、活動の自走化を実現しています。地域の方々との交流は、学校と地域をつなぐ架け橋となり、子どもたちの主体性や表現力、社会参画の意識を高めています。こうした取り組みは広報誌や地域新聞でも紹介され、理解と共感を得ることができました。

今後の展開

現在、校内に20周年記念ローズガーデンを造成中で、完成後は環境教育や表現活動に活かし、地域交流の拠点としても活用予定です。また、3月に行う5年生への引き継ぎ式や、教員間での剪定技術の共有を通じて、活動の持続性を高めています。今後も地域との協働を大切にし、子どもたちが主体的に学び、環境や文化を守り育てる「まちづくりの担い手」として成長できるよう、取り組みを発展させていきます。



団体部門 花のまち 花くらぶ 北海道東神楽町



東神楽町の道道沿いに広がる植栽帯を、美しい景観に改良することを目的に、住民有志による団体が2020年に発足しました。現在は15名が、約350mの植栽帯と50㎡の公園花壇を中心に活動しています。宿根草を主体とした美しい植栽は、環境に配慮しながら丁寧に維持管理され、町の景観向上に貢献しました。活動は町内に広く浸透し、花苗の提供など行政からの支援も受けながら、2024年に新設された「はなのわガーデン」にも活躍の場を広げています。

厳しい気象条件の中でも活動を継続し、「花のまち東神楽町」にふさわしい景観づくりに取り組む姿勢が、高く評価されました。

団体部門 まちづくり宮ノ下地区委員会 福井県福井市



1993年、一軒の農家が休耕田にコスモスを咲かせたことが活動のきっかけとなりました。現在では地域の農家組合が休耕田を集約し、まちづくり委員会と協働で、国内最大級の17ヘクタールもの規模でコスモスを栽培しています。花の時期には手作りの「福井コスモスまつり」を開催し、約3万人が訪れ賑わいます。2018年に当コンクールで農林水産大臣賞を受賞した後、コロナ禍による活動の一時休止を経て、2024年にコスモスまつりを再開しました。

住民の高齢化や設備の老朽化といった課題を、運営体制の刷新やクラウドファンディングで解決し、これまで以上に住民が多く参加・結束して地域の花の活動として盛り上げている点が、高く評価されました。

団体部門 新川姫蛭と花を守る会 大阪府高槻市



2003年から22年間、会員11名で河川敷や庄戸公園、府道沿いなど約700mにわたり緑化活動が続けています。かつては桜150本と芝桜が咲く散策路でしたが、手入れが行き届かず荒れてしまったことを憂いた代表が有志を募り、整備に取り組みました。現在では、桜や芝桜をはじめ四季折々の花が咲き、河川敷は地域の憩いの場へと生まれ変わりました。活動地付近には陸生のヒメボタルが生息しており、農業を極力使わず環境を守りながら、調査・保護や繁殖期の減灯を呼びかける啓発活動を行っています。

丈夫で育てやすい草花を活用して散策路を再生し、ヒメボタルの保護活動を長年継続してきた取り組みが、高く評価されました。

団体部門 あさごなでしこの会 兵庫県朝来市



朝来市の中山間地にある夜久野高原「四季彩の丘」では、約6ヘクタールにわたり、花によるダイナミックで美しい景観が広がっています。かつては放置されていた土地でしたが、再生計画者や行政など関係者の尽力により、写真映えする名所として多くの人が訪れるようになりました。この景観維持を支えているのが、朝来市のガーデニング講座を受講した地域住民11名により発足した「あさごなでしこの会」です。同会は2018年からボランティアで草取りや灌水などの管理作業に取り組み、現在は35名で、管理作業のほか小学生の寄せ植えづくりの補助なども行っています。

花による広大な景観づくりを支え、地域活性化に貢献する地道な取り組みが、高く評価されました。

団体部門 しょうばら花会議 広島県庄原市



2010年、子どもたちの心を花で癒そうと通学路や家庭へのプランター設置を始めたことをきっかけに、行政の協力を得て団体が立ち上がりました。現在は庄原市の観光政策と連携し、84名のメンバーが市内約30カ所の個人邸や公共空間で「庄原さとうまオープンガーデン」を開催しています。オープンガーデンを通じて交流人口の拡大や地域振興に努めるほか、小学校や介護施設で寄せ植え教室も行い、広大な市域全体を対象に花のまちづくりに取り組んでいます。

各ガーデンの質の高さに加え、地域を巻き込んだ多様な活動と、「庄原を美しく、住んで訪れて楽しいまちにしたい」という熱意が、高く評価されました。

団体部門 特定非営利活動法人はかた夢松原の会 福岡県福岡市



2012年、当法人事務所が面する国道沿い約2kmで、ゴミの不法投棄や放置自転車対策としてプランターを設置し、花を植える活動を開始しました。灌水は沿道の店舗や企業、住民が協力して行い、年2回の草花の植え替えには、西日本短期大学緑地環境学科の学生や市の花植えボランティアが参加し、毎回約60名が集まります。活動により沿道からゴミや放置自転車がなくなり、代わりに楽しそうに花の写真撮る人の姿が見られるようになりました。

2018年に福岡市が始めた「一人一花運動」にも貢献し、世代を超えた地域一丸の環境美化への取り組みが、高く評価されました。